

Chapter 4 法政大学大学院の「人」

理工学研究科 機械工学専攻

昼間開講

修士課程 2015年度修了
キャノン株式会社勤務



外部機関との共同研究により、
知的好奇心を深掘りする

栗原 愛美

法政大学 理工学部 機械工学科卒業後、
法政大学大学院入学。
修了後、キャノン株式会社入社。

学部卒

人文科学研究科 国際日本学 インスティテュート 日本文学専攻

昼夜開講

博士後期課程在学中



グローバルな文化「カルタ」の魅力を
より多くの人に伝えたい

留学生

Maschio Paola (マスキオ・パオラ)

イタリア・ヴェネツィアの
カ・フォスカリ大学を卒業後、
研修生を経て法政大学大学院入学。

公共政策研究科 公共政策学専攻

夜間開講

修士課程 2015年度修了
内閣府勤務



市民の意見を反映する仕組みを、
科学技術政策に取り入れる

星野 利彦

立命館大学 文学部 地理学科卒業後、
科学技術庁(現・文部科学省)入庁、
社会人学生として法政大学大学院入学。

社会人

幼少期から宇宙に対する憧れを抱き、特にロケットや宇宙機などのメカニカルな分野に興味があったため、学部から修士課程まで一貫して材料力学や機械力学、そして宇宙工学といった分野の研究に携わりました。

具体的には、「スペースデブリ(宇宙ゴミ)」に関するもので、専用ソフトを用い、宇宙機にデブリが衝突する際のシミュレーションを行う基礎研究です。これは宇宙航空研究開発機構(JAXA)との共同研究で、私の研究室からは5名が参加し、JAXAにデスクも設けられ

ていました。そのため、研究室で仲間や先生方と苦勞をともにするアカデミックな学びとともに、社会人の方々との実践的な研究活動にも携わることができ、大きなやりがいを感じました。大学院時代にひと足早く仕事の現場に携わった経験は、今後の自分自身に必ず生きてくると確信しています。

今後は、幼い頃の初心を忘れずに、社会人として、そして研究者として高度な技術貢献を実践できるよう、これからも「学び」を継続していきたいと考えています。

My Laboratory | 新井研究室

「バードストライク」「バットとボールの衝突」「スペースデブリ」など、高速衝突防御材料に関する研究を行う複合材料研究室です。海外発表など、数多くの学会に参加する機会に恵まれ、活気に満ちあふれています。



私の母国はイタリアですが、母の趣味が生け花だったり、自宅に日本画集があったりと、幼いころから日本文化に囲まれた生活を送っていました。私自身が日本へ憧れを抱いた直接のきっかけもやはり、画集で見た浮世絵で、その興味が年を追うごとに発展し、現在の研究テーマ「江戸時代の日本におけるカルタとその文化史」につながっています。

日本独自の文化である百人一首とは異なり、戦国時代に南蛮船で日本に伝えられたことから分かるように南ヨーロッパにも存在し、現在で

もポピュラーな遊びです。このようなグローバルな広がりを持つ文化を学ぶために学際的な研究環境を求め、国際日本学インスティテュートへの入学を決意しました。

私自身はカルタという日本文化をととも面白く思い、研究対象としても興味が尽きません。ですから、この研究をより深掘りしていくのはもちろんですが、カルタの魅力を文化の当事者である日本の方々にぜひ伝えたい。そして将来は、国境やアカデミズムなどの枠を超えた、汎用性の高い研究を成し遂げたいと考えています。

My Laboratory | 小林研究室

文学や美術、思想といった区別のない、江戸が最も「江戸」らしい文化を生み出した18世紀後半から19世紀初期を中心に研究しています。現代人にとって理解が難しい戯作文学や浮世絵の読み解きなども学びます。



大学卒業後、国家公務員として国の科学技術行政に携わっています。科学技術政策は、これまで科学技術の担い手による担い手のための政策として、省庁ごとの専門家集団による「閉じたシステム」のもとで策定されてきました。しかし「新しい公共」などのキーワードで語られるように、公共の担い手は多様化しています。科学技術政策も多様な担い手が参加する「開かれたシステム」のもとで策定されるべきとの思いから、大学院で公共政策学を学び直しました。

研究科では、自治体やNPO、公益法人等の多様な方々と議論する機会に恵まれ、私自身、公共の担い手に関する認識が広がりました。また、専門科目やゼミを通じ、行政への市民参加の理論と実践について、体系的な考察を深められました。今後は、省庁ごとの縦割りではなく、社会全体のサステナビリティを考慮可能な市民参加プロセスを含む科学技術政策の策定に向け、横断的に総合調整できる行政の仕組みの実現を目指し、自身の職務に学びを生かしたいと考えています。

My Laboratory | 小島研究室

「持続可能な地域社会の創造」をテーマに、都市や農山村の環境、社会・文化、経済など、幅広い政策課題を対象に、市民やNPOなど、多様な主体が関わる新たな行政の仕組みについて、社会実践を通じて研究しています。



履修モデル

※時間割は履修当時のものですのでご注意ください。

[昼間開講]

		1年次	2年次
月	春学期 秋学期	宇宙飛行体特論	
火			
水	春学期 秋学期	弾性学特論 衝撃破壊工学特論	
木	春学期 秋学期	応用熱力学特論	
金	春学期 秋学期	環境エネルギー技術 戦略特論	
土			
通年		機械工学ゼミナール	機械工学特別実験1 機械工学特別研究1 修士論文

※その他1、2年を通じて論文指導があります。

[昼夜開講]

		1年次	2年次
月	春学期 秋学期		
火	春学期 秋学期	江戸の思想史Ⅰ 国際日本学研究Ⅰ	
水	春学期 秋学期	江戸の思想史Ⅱ 国際日本学研究Ⅱ	
木	春学期 秋学期		
金	春学期 秋学期	江戸の文芸と文化Ⅰ	
土	春学期 秋学期	江戸の文芸と文化Ⅱ	
通年			

[夜間開講]

		1年次	2年次
月	春学期 秋学期	公衆衛生研究	
火	春学期 秋学期		防災力と科学・技術
水	春学期 秋学期	ファシリテーション演習	
木	春学期 秋学期	サステナビリティ 研究入門	
金	春学期 秋学期	サステナブル デザイン論	
土	春学期 秋学期	地域環境史研究	
通年		都市文化論	
月	春学期 秋学期	経済学基礎 サステナブル地域政策研究	消費者政策・競争政策
火	春学期 秋学期	地球環境学基礎 市民参加技法	
水	春学期 秋学期	環境自治体政策研究 人文地理学特殊講義Ⅱ	地球環境生態学 論文研究指導

※掲載している履修モデルは、長期履修制度を利用したモデルで、3・4年次に
変更した科目もあります。(長期履修制度の詳細は、P.12をご覧ください。)